

共生型放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7年 3月20日

公表:令和7年4月1日

事業所名 共生型サービス事業所ひよしの家

区分	チェック項目	事業所の評価				保護者の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも えない	いいえ	工夫している点	はい	どちらとも えない	いいえ	ご意見	
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	3	1	・個室に机・テレビ・ソファを用意し、子供達だけで過ごせるようにしている。 ・高齢者と子供達が一緒に過ごせるスペースがある。	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切である	5	6	1	・専門で見守る事が出来ないため手の空いている職員が対応している。	1	0	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	0	0	・高齢者施設のためバリアフリー化は適切にされている。	1	0	0		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	2	0	・計画をモニタリングを通して振り返り、再検討し、問題が発生したり対応が変わる毎に情報を検討している。					
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	4	0	・アンケート調査を実施して希望・要望等を把握して業務改善につなげている。					
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	3	0	・法人のホームページで公表している。					
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	3						
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	4	7						
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	1	0	・保護者からの意見・学校での様子等相談委員を通して確認し、本人の課題を考え作成している。	1	1	0		子ども・保護者のニーズや課題に対しては、事業所内だけで抱え込まず、必要に応じて外部機関に相談・助言をいただきながら支援する。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	7	3						
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	6	1	・受け持ち職員を中心に職員間で話し合い行っている。					5領域のねらいを理解し、そのねらいに沿った支援内容を検討・実践する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	4	2	・長期休みには外出する機会を作る等、通常と違ったプログラムを考えている。 ・受け持ちを中心に「○学期の目標」を可視化している。	1	0	0		

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	5	1	・学期ごとに課題を決めている。					
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	5	0	・モニタリングで話し合い、個別に出来ることを計画している。					
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	4	5	・必要時に行っている。					
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5	4	・支援終了後ではないが、その都度共有し話し合っている。 ・ミーティングやモニタリングを通して支援の振り返りや気付いた点等を共有している。					
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	1	0	・日々記録をより、その内容をモニタリングに活かしている。 ・事実を書くことに徹している。改善点は話し合いなどをして早期解決が出来るよう努めている。					
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	1	0	定期的にモニタリングを行い、支援の適切さの是非を確認している。					
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	8	1						改訂ガイドラインを確認し内容を周知する。範囲が広いので、項目を分けて勉強会を計画する。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	0	・支援専門員の招集に合わせて、ふさわしい関係者がサービス担当者会議に参画している。					
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11	1	0	・年間計画を共有し、行事や下校時刻・長期休み等を確認している。 ・必要時、連絡を取り対応している。					学校見学や授業参観を行い、どのような環境下でどのような指導・教育が行われているか、個別に確認し支援に活かす。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	9	1	・現在対象者はいないが、状況に合わせて対応する。 ・受け入れを検討する時は体制を整える。					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	3	2	・相談支援専門員を通し行っている ・ひまわりファイルの活用を検討する。					
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	7	0	・事業所へ移行した事例はないが、事例が生じた場合は支援内容等の情報を提供する。					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	7	3	・基幹センターと連携し助言を受けている。					
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	12		1	0	0		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	7	3	・案内があれば積極的に参加するようにしている。					
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	1	0	・送迎時の会話や連絡帳を活用し、本人の状況等を伝えるようにしている。	1	0	0		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	7							

関係機関や保護者との連携	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	1	0		1	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	4	2		1	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5	5		1	0	0		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	0	・苦情窓口を設定し契約書に明記、対象者や保護者に周知している。苦情があった場合は速やかに原因を究明し、解消・解決に繋げるようにしている。	1	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	8	2	・定期的に広報誌を作成し発言しているが、共生型の内容は少ない。	1	0	0		
	35	個人情報に十分注意している	12	0	0	・情報やカルテの取り扱いには注意している。	1	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	0	・伝え方や対応の仕方など、一人1人に合わせて変化させている。 短く分かりやすい言葉を使う。	1	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	6	3	サービス評価等を活用し検討し検討している。地域の方々を招待するのは防災訓練と祭りで行っている。					
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	6	0		1	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	2	0	・対象者と一緒に定期的に防災訓練を実施している。	1	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	2	0	・定期的に研修を行っている。					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	8	0	・計画に記載はしていないが、身体拘束について基準や手順を明確にしている。 ・事例はないが、マニュアルを整備し組織的に行うようルールを設定している。					
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	8	1	・現在対象者はいないが、必要時対応できる範囲内で対応する。 ・事例はないが、アレルギーの程度や種類によっては対応が困難な場合もある。					
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	1	0	・ヒヤリハットで情報の共有ができて、意見交換の場が持てている。 ・ヒヤリハットによる情報共有で類似した件や軽微な件を防止できている。					
満足度	44	子どもは通所を楽しみにしているか					1	0	0		
	45	事業所の支援に満足しているか					1	0	0		